

科目名	基礎看護援助論 I	授業科目名	基礎看護援助論 I (基礎看護技術)
授業回数・時間	14回 29時間(試験1時間含む)	開講年次	1年次 前期
単位	2単位(共通技術を含む)		
担当教員	山形祐子		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念を理解する。 2. 看護実践の基礎となる技術を習得する。 3. 日常生活の援助技術、診療の補助技術を習得する。 		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の概念とその特性について学び、看護実践における技術の意義について理解する。 ・看護の対象が各個人の最適健康状態を生み出せるよう、日常生活行動および診療における看護の基礎的知識・技術を習得する。 		
学習内容 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護場面に共通する基礎看護技術についての基本的知識・技術を習得できる。 (環境調整・安全管理・安楽確保・感染予防) ・日常生活行動に関連した基礎看護技術についての基本的知識・技術を習得できる。 (食事栄養・排泄・活動休息・清潔衣生活) ・診療、処置における援助に関連した基礎看護技術についての基本的知識・技術を習得できる。 (救命救急・与薬・呼吸循環・創傷管理) ・検査に関連した基礎看護技術についての基本的知識・技術を習得できる。 (検体採取・検査法) ・看護の対象の個性にあわせた看護技術活用の必要性を理解し、個別的な看護について記述することができる。 		
授業計画			
回数	講義内容	備考	
1	導入 患者の思い 看護者に求めること		
2	環境調整技術 食事援助技術①		
3	食事援助技術② 排泄援助技術①		
4	排泄援助技術② 活動・休息援助技術		
5	苦痛の緩和・安全確保の技術		
6	清潔・衣生活援助技術		
7	呼吸・循環を整える技術		
8	創傷管理技術		
9	与薬の技術		
10	救命救急処置技術		
11	症状・生体機能 管理技術		
12	診察・検査・処置の介助技術		

回	講義内容	備考
13	感染防止の技術 安全確保の技術	
14	死の看取り まとめ	
	試験	
メッセージ	<p>看護は健康・不健康を問わず、全ての対象者に対してその生命力の消耗を最小限度にするよう働きかけます。</p> <p>皆さんが進学を決めた動機には、専門的知識や技術をもっと学びたいということがありました。</p> <p>基礎看護援助論Ⅰを学ぶことで、皆さんが対象者の心身の安全や安楽を支援するための基本的知識や技術を習得できることを願います。</p> <p>看護ケアの実践では、対象者に対する看護者の誠意や倫理的配慮等が表出されます。</p> <p>三つの要素である、精神(こころ)・知識(頭)・技術(手)に励み、自己の看護を高めてください。</p>	
教科書	<p>任和子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 第16版 医学書院 2016</p> <p>竹尾恵子監修 向井尚人編集：看護技術プラクティス 第3版 学研メディカル 秀潤社 2015</p>	
授業形態	講義 グループ学習	
評価方法	筆記試験 課題レポート 出席状況 授業貢献度	
技術演習	学年末に技術演習(復習)、グループ学習があります。	

技術演習について

回数	内容	備考
1	実習室の使い方	
2	基礎看護技術演習等OR	グループ分け・課題
3	血圧測定・意識レベル	グループ学習
4	血圧測定・意識レベル筆記試験	筆記試験
5	清潔操作・ガウンテクニック	グループ学習
6	清潔操作技術試験①	手洗い、万能車・トレーの拭き方、 内科的ガウンテクニック(手袋・マスクの着脱含む)、鑷子での渡し方
7	清潔操作技術試験②	
8	グループ課題	
9	フィジカルアセスメント①	演習(舘坂恵)
10	フィジカルアセスメント②	演習(舘坂恵)
11	グループ課題	
12	キネステイクス	演習(鳴海美紀子他)
13	1年次履修内容の口頭試問 (食、排泄、清潔、診療の補助、与薬、感染防止など)	
14	グループ課題	
15	グループ課題の発表	

グループ課題

- 足浴時の看護と根拠
- 記録文の書き方と報告の仕方
- 看護者の態度、表情、身だしなみ
- 小児実習における危険と予防
- 食事介助での看護と根拠
- 看護者のことばづかいと話し方
- 成人・老年実習における危険と予防
- 母性実習における危険と予防

令和3年度

第53期生

実務経験のある教員による授業科目

科目名	基礎看護援助論 I	授業科目名	基礎看護援助論 I (基礎看護技術)
授業回数・時間	6回 12時間 (試験1時間含む)	開講年次	1年次 前期
単位	2単位(共通技術を含む)		
担当教員	石川 玲、福士王菊、對馬春子、佐藤哲子		
科目目標	1. 看護技術の概念を理解する。 2. 看護実践の基礎となる技術を習得する。 3. 日常生活の援助技術、診療の補助技術を習得する。		
学習内容	スキンケア、感染管理、輸液ポンプ、排たんケアについて学ぶ		
授業計画			
回	講義内容	講師	
1	スキンケア	佐藤哲子	
2	標準予防策(感染管理)	對馬春子	
3	経路予防策(感染管理)	對馬春子	
4	輸液ポンプ 演習	福士王菊	
5	排たんケア	石川 玲	
6	排たんケア 演習	石川 玲	
教科書	基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ : 系統看護学講座 医学書院 基礎看護学(4)臨床看護総論 : 系統看護学講座 医学書院 資料		
授業形態	講義 演習		
評価方法	課題提出 出席状況		

令和3年度

第53期生

実務経験のある教員による授業科目

科目名	基礎看護援助論 I	授業科目名	基礎看護援助論 I (共通技術)
授業回数・時間	9回19時間(試験1時間含む)	開講年次	1年次 前期
単位	2単位(基礎看護技術を含む)		
担当教員	千葉真愛美		
科目目標	1. 看護技術の概念を理解する。 2. 看護実践の基礎となる技術を習得する。 3. 日常生活の援助技術、診療の補助技術を習得する。		
学習目標	・看護技術の概念とその特性について学び、看護実践における技術の意義について理解する。 ・看護の対象が各個人の最適健康状態を生み出せるよう、日常生活行動および診療における看護の基礎的知識・技術を習得する。		
学習内容	1. 看護技術の概念 2. コミュニケーション技術 3. 基本技術(観察・記録・報告) 4. バイタルサイン 5. フィジカルアセスメント 6. 教育・相談に必要な技術		
授業計画			
回数	講義内容	備考	
1	看護技術の概念		
2	コミュニケーション①		
3	コミュニケーション②		
4	ヘルスアセスメント		
5	フィジカルアセスメント①		
6	フィジカルアセスメント② 演習		
7	看護過程展開の技術①		
8	看護過程展開の技術②		
9	学習支援		
10	筆記試験		
教科書	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I-基礎看護学②-, 医学書院, 2017 ・山内豊明著, フィジカルアセスメントが役立つブック第2版-目と手と耳でここまでわかる-, 医学書院, 2015		
授業形態	講義 グループワーク 課題学習		
評価方法	筆記試験・課題レポート 授業態度: 忘れ物・私語・内職等は減点 グループワーク参加状況/質疑応答/発言等によって加点		

令和3年度

第53期生

実務経験のある教員による授業科目

科目名	看護学概論	授業科目名	看護学概論
授業回数・時間	14回30時間	開講年次	1年次 前期
単位	1単位		
担当教員	三上みどり		
科目目標	1. 看護の主要概念（人間・看護・健康・社会）と看護理論の基礎を理解する。 2. 看護の機能・役割を理解する。 3. 看護倫理について理解する。		
学習内容	1. 看護の理念の構成要素 1) 看護の定義 2) 看護の目的 3) 看護の対象 4) 看護の機能と役割 2. 看護の対象の理解(人間と健康) 3. 看護と社会 4. 看護の提供の仕組み 5. 看護の歴史 6. 主な看護理論		
授業計画			
回	講義内容	備考	
1	看護とは		
2	看護とは		
3	看護の対象とその理解		
4	看護の対象・役割		
5	健康の定義と理解*		
6	看護理論①		
7	看護理論②		
8	看護理論グループ発表		
9	中範囲理論		
10	中範囲理論の使い方		
11	看護における倫理*		
12	看護における倫理*		
13	看護に関わる基本的法律*		
14	まとめ		
	試験		
教科書	基礎看護学（1） 系統看護学講座 : 医学書院 参考書：フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書き」 バージニア・ヘンダソン「看護の基本となるもの」		
授業形態	講義 演習		
評価方法	筆記試験 課題提出 出席状況 *は小テストあり		

令和3年度

第53期生

実務経験のある教員による授業科目

科目名	基礎看護援助論 I	授業科目名	基礎看護援助論 I (共通技術)
授業回数・時間	9回19時間(試験1時間含む)	開講年次	1年次 前期
単位	2単位(基礎看護技術を含む)		
担当教員	平田 紀子		
科目目標	1. 看護技術の概念を理解する。 2. 看護実践の基礎となる技術を習得する。 3. 日常生活の援助技術、診療の補助技術を習得する。		
学習内容	1. 看護技術の概念 2. コミュニケーション技術 3. 基本技術(観察・記録・報告) 4. バイタルサイン 5. フィジカルアセスメントの技術 6. 教育・相談に必要な技術		
授業計画			
回	講義内容	備考	
1	看護技術の概念		
2	コミュニケーション①		
3	コミュニケーション②		
4	ヘルスアセスメント①		
5	フィジカルアセスメント①		
6	フィジカルアセスメント②		
7	看護過程展開の技術①		
8	看護過程展開の技術②		
9	学習支援		
	試験		
教科書	基礎看護学(2)基礎看護技術 I : 系統看護学講座 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック第2版 : 医学書院		
授業形態	講義 演習		
評価方法	筆記試験 課題提出 出席状況		